

●一般型

(平成18~20年度)

山梨くになかエリア

分散型クリーンエネルギーシステムの構築

国立大学法人 山梨大学
〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
TEL. 055-220-8754



●事業推進体制

- 事業総括……………横塚 弘毅(国立大学法人 山梨大学副学長
(企画・研究担当理事)知的財産経営戦略本部本部長)
- 研究統括……………渡辺 政廣(国立大学法人 山梨大学クリーンエネルギー研究
センター・教授・センター長)
- 科学技術コーディネータ…石井 一雄
佐藤 文昭

●核となる研究機関

- 国立大学法人 山梨大学、山梨県総合理工学研究機構

●主な参加研究機関

- 産…(株)アスクテクニカ、(株)エスシーアイ
菊水電子工業(株)、三洋機工(株)、東京エレクトロン(株)、
東京ガス(株)本社・甲府支社、東京電力(株)本店・山梨支店、
(株)ニステック、日邦プレジジョン(株)、
富士電機アドバンステクノロジー(株)、(株)松下製作所、
ヤマト科学(株)、山梨県ワイン酒造組合
- 学…国立大学法人 山梨大学
- 官…山梨県総合理工学研究機構、山梨県工業技術センター
山梨県富士工業技術センター、
山梨県総合農業技術センター

●研究開発のねらい

世界最先端の燃料電池研究を推進する山梨大学並びに、産学官共同研究や技術移転等を推進する山梨県総合理工学研究機構を中核研究機関として、関連技術を有する地域企業及び関連研究実績のある県立試験研究機関等が共同することにより、水、都市ガス、バイオマスという、異なる資源から生成される水素を用いた次世代エネルギーシステムと、それを構成する主な基礎技術を確認する。また、本事業を通して、本エリア内外の関連技術を有する地域企業や試験研究機関の連携を強化し、新たに環境と調和した次世代エネルギー関連産業の集積となる「環境・次世代エネルギー産業クラスター」と、関連技術やノウハウの蓄積を図る。さらに、確立した基礎技術の発展に向けた研究開発を継続的に推進することにより、今後の循環型社会の実現に大きく寄与することが期待される分散型クリーンエネルギーシステムの構築を目指す。

●研究の内容

1 多様な資源からの水素製造に関する研究開発

A. 高温水蒸気電解による水素製造の要素研究

安定化ジルコニアなどの酸化物を固体電解質として用いる高温水蒸気電解(SOEC)の実用化に不可欠な高性能電極を開発し、固体電解質への接合法を確認する。

B. バイオマスからの純水素生産システムの開発

高糖濃度植物バイオマス(山梨県特産のソルガムやスイートコーン等のエネルギー植物の残渣等)の発酵により水素やエタノールを効率的に生産するシステムを開発するとともに、それら発酵処理の残渣(セルロース系繊維質)および山梨県に豊富に存在する林産廃棄物の更なるエネルギー化を図る。

C. 改質装置の試作と評価

燃料電池用水素製造・精製システムに不可欠となる改質—シフト—CO除去の3工程に用いる触媒の基礎実験データをさらに蓄積するとともに、1kw改質装置への実機適用を想定した触媒量産技術の確立及び量産相当品触媒での最適運転条件を把握し、実証試験の計画策定を行う。

D. 超小型純水素製造装置及びその利用システムの開発・実証研究

初期水素市場の効果的な立ち上げと拡大に向けて、都市ガス改質ガスを用いて純水素精製装置の実用化に向けた研究開発を行い、水素利用システムと一体のモデルシステムとして構築し評価することにより、地域における初期水素インフラ形成の最適化モデルを確立する。

2 燃料電池の発電装置を開発するための研究開発

E. 高耐食性・高性能金属セパレータの開発及びPEFC発電装置の試作・評価と実証実験

水素エネルギー社会の重要技術となる燃料電池に必要な低コスト、高耐久性、コンパクトな金属セパレータを開発するとともに、その成果を活用した燃料電池を作製し、市販電池スタックシステムの電池を置き換え、評価試験を行う。

